

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200810		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵		
所在地	札幌市北区新川2条10丁目1番35号		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	平成27年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170200810-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階		
訪問調査日	平成 27 年 10 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やまと館では、なでしこ館との共通理念のほかに、ユニット独自の標語“心のゆとりに笑顔が生まれる”をモットーに、常に職員は笑顔を決やらず利用者様と接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【良好な人間関係とケアへの反映】
 気楽に何でも話し合える職員間の良好な人間関係は職員の職場定着率を高めて長年務める職員も多く、これによって職員と利用者や家族とのコミュニケーションが向上し、理念に基づく利用者本位のケアの実践に反映されています。
 【詳細な介護関連諸記録の作成】
 詳細な内容を記載したケアプランとプラン実行の確認欄を設けた日々の介護支援経過表、独自に作成の身体拘束をしないための抑制チェック表などケア関連の諸記録によって利用者への効果的ケアに活かされています。
 【利用者の身体機能維持への取り組み】
 年ごとに低下する利用者の身体機能維持のため、河川散策路散歩や各種地域行事への参加、ホーム夏祭りや外での焼肉パーティ、さくらんぼ狩りなどの種々の外出行事の取り組みが利用者の楽しみになっています。
 【楽しさ、美味しさに配慮した食事の提供】
 手づくりの味にこだわった献立と季節の食材を活かした盛りつけにも配慮し、誕生日や季節行事の特別献立、外での焼き肉パーティ、回転寿司など外食等と楽しさと美味しさに配慮した食事が利用者に喜ばれています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の作成は職員が携わり、地域との交流について謳っている。毎週月曜日のミーティング時に、その日の勤務の職員と管理者全員で唱和し、実践に繋げる様、意識している。	職員によって創り上げられた理念を毎週唱和し、理念に基づくユニット単位の標語と共に内部に掲示して全職員の共有にしています。さらに、日常業務においても理念と標語を意識しながら利用者へのサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通じ、地域の行事に参加したり、地域のボランティア(マジック、音楽など)がホームへ来訪などの交流がある。	ホーム運営に町内会長による積極的な協力と多数の町内会役員の運営推進会議出席、利用者の町内会諸行事への参加、ホーム夏祭りへの住民参加、各種ボランティアによる慰問、児童会館児童との交流など地域の一員としての存在感があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のかた向けに、公開日を設け、ホームの見学及び介護相談会を年一回行っている。又、公開日以外でもいつでも相談を受けられるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議の中で、ホームや利用者様の近況について報告し、意見を頂ける様努めている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員以外に多数の町内会役員、消防団員、家族が参加して定期的に開催されています。会議では災害対策や地域情報などん意見交換を行い、ホーム運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で、地域包括支援センター職員に事業所の実情を伝え、協力関係を築けるよう努めている。	保護課関係の市職員来訪時には積極的に話し合いの機会を持ち、介護関連担当窓口へも随時、電話等で相談や情報交換を行い行政との協力関係を築くよう努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、すべての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。カンファレンス等で拘束になっていないか、話し合っている。	身体拘束をしないケアについては外部研修や内部勉強会で職員の共有にしています。また、独自に作成した抑制チェック項目表の活用やケアについての確認テスト実施、日常業務での確認、日中の玄関施錠なしなど身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において虐待防止について学んでいる。又、身体拘束廃止委員会を設け、現状を共有し、防止の徹底に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が成年後見制度について学ぶ機会は無かったが、高齢者虐待防止については社内研修で職員全員が学び、利用者の支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設け、ご家族等に不安が無いように努めている。改定等ではご家族の来訪時、家族会、手紙等で説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会名簿に要望等を記入できるようにしている。家族会を年一回行って、意見等を頂ける様努めている。	家族来訪時に利用者の様子を伝え、毎月発行のホーム便りにも個別の写真付き情報を載せています。年1回の家族会でも利用者について話し合いをしています。家族からの要望等はご家族連絡ノートに記載して内部で検討し、ホーム運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画立案時に、職員からの意見や提案を聞きまとめ、反映させている。	代表者と職員及び職員間の良好な人間関係がミーティング等で自由に話し合える雰囲気醸成し、職員の定着率向上につながっています。毎年の事業計画立案の際にも職員の意見や要望を聞き、計画に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とは密に連絡を取り合っている。時には個人面談で話を聞いたりし、職員の状況等を把握している。休暇等も積極的に取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修を実施し、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	年に数回ではあるが、同業者との交流をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事を聞き、解消できるよう努めている。体験入居も行い、安心して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話等で不安な事などについて、充分伺えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式等の記入をご家族にお願いし、必要とする支援の見極めが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や畑仕事を教わったり、経験してきた話を傾聴、日常の様々な場面で培った経験談を伺っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不穏時や変化があった場合、その都度家族に連絡、報告し意見の交換を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、家族等の手紙や来訪等で、安心して生活できるよう支援している。	高齢化と介護度上昇により外出希望も減っていますが、昔馴染みの人や場所等への訪問希望が有れば家族の協力も頂きながら支援に努めています。職員は電話や手紙等の連絡も手伝い、来訪者は歓迎して居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で他利用者様との関係が円滑に維持できるよう、スタッフが間に入っている。又、利用者同士の関係の中から、本人の特性を見出し、ケアにつなげている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、面会に行ったり、ご家族がホームの行事を手伝って下さったりの関係がある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ一人ひとりが本人の意欲を汲み取り、カンファレンス等で常に話し合っている。	職員は、ケアサービス時の表情や様子から利用者の思いや意向をの把握に努めていますが、困難な際は複数のケア内容からの選択肢と家族や諸記録の情報を参考にし、職員間で協議しながら利用者本位の支援を検討し、実践しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人に直接話を聞き、生活歴、趣味趣向等、色々な情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に気を配り、毎日の申し送り、日誌の記入等で職員全員が把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の総合カンファレンスと個別のカンファレンスで、現状の共有と変化に即した介護計画を作成できるよう努めている。	ケアプランは3ヵ月毎に定期見直しをしていますが、モニタリング等で利用者の状態を把握し、毎月のカンファレンスでプランを検討しています。プラン見直しの時は家族や医師と相談して作成し、全職員が共有しています。日々の介護記録表の中にケアプラン実行欄を設け、効果的なケアの実施に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別の日誌に記録している。申し送り、カンファレンス等、様々な場面で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問マッサージ、訪問理美容等の利用で、本人やご家族のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店に出かけ、ホームの利用者様である事を認識していただき、見守りなどの協力が得られるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ、直接医師とご家族が話せる機会を設けたり、電話で話せる様にしている。入居前からの、かかりつけ医などに職員が同行する事や、手紙で様子を伝えている。	24時間対応の協力医療機関による月2回の訪問診療と訪問看護師による週2回の健康チェックを受けています。かかりつけ医等への通院には家族又は職員が付き添い、病状等の情報を家族へ伝えています。歯科も必要に応じて随時、訪問診療を受けています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師を確保しているので、相談、対応を行っている。出勤日以外も電話等で対応してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者様の生活状況も伝えている。退院時も十分に状況をお聞きできるよう、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族と医師、ホーム職員が話し合う場を設けている。	ホームは看取り支援を可能としており、入居時に重度化指針説明と同意書を頂いています。さらに、利用者の状態変化に合わせて看取りの説明と急変時対応希望書を頂いており、職員は勉強会等でホーム方針と対応策を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で応急手当の実習を行っている。常に利用者様の身体状態を把握し緊急に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は毎月行っている。消防職員立会いで、地域住人にも参加いただき、年一回行っている。	消防署の指導を受けて住民の参加協力もある年1回の避難訓練と毎月の自主訓練を実施しています。さらに、半年毎の設備点検、毎月の防災チェック、停電時の暖房対策、備蓄品整備、地域住民との自動通報装置設置など災害に備えています。	災害対策は充実していますが、住民にも参加協力を頂く定期避難訓練の年2回実施について検討を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する声掛けを心がけている。プライバシー確保についてスタッフ同士で話し合い確認している。	日常のケアサービス時に、利用者の人格尊重とプライバシー確保に十分配慮した声かけに努め、ミーティングや申し送りの職員間の話し合いの場においても確認しています。利用者の各種記録なども適正に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話等でも、職員が答えを限定せず、利用者様に自己決定できる声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ラジオ体操、レクリエーション等は毎日の日課で行っているが、その他の場面では、利用者の意思を尊重し、自由に生活して戴けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のモーニングケアにて、整容を行っている。又、クリスマス会等、特別な行事の際は服装、髪型、化粧等念入りに支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のADLに合わせ、食器拭きや洗いなど毎日手伝って頂いている。昼食時は職員も利用者様の側に座り、一緒に談話を楽しみながら食事を摂っている。	利用者が美味しい食事を楽しく取れるように心がけ、季節の食材を活かして手づくりの味を出すよう工夫された食事を職員と一緒にとっています。誕生日や季節行事には別途献立を考え、外での焼き肉パーティや外食もあるなどバラエティに富んだ食事が提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態を一人ひとり検討し、一口大、ペースト状、栄養補助食品等を用い、対応している。食器やコップ等も軽い物や持ち易い物を使用している。排便を促す為、乳酸菌飲料も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応、毎食後口腔ケアを行っている。うがいの出来ない利用者様は、口腔用スポンジに緑茶を含ませ、口腔を拭いている。義歯使用者は、週3回、洗浄剤を使用し、清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔を常にチェックし、排泄のパターンを把握し、声かけや、誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを介護記録に記載して把握し、人格尊重に配慮しながら声かけ誘導でトイレ排泄を支援しています。利用者の下着類も身体状況に合わせて最適な物を着用するよう努め、おむつ類は可能な限り避けるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後と昼食前に乳酸菌飲料を毎日摂取し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴日以外にも状況や本人の希望に合わせて、個々に応じた支援をしている。	入浴は週2回を基本とし、希望によってそれ以上の入浴も可能です。入浴時には入浴剤や音楽によって楽しく過ごせるよう工夫し、入浴を嫌がる利用者には話しかけや日時の変更等で柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、休んで頂いたり、夜間安眠が出来るように体操や、レクリエーションを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの服用している薬の把握をされており、投薬時は間違いが無いように、声を掛け合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に合わせ、家事仕事を手伝って頂いている。又、季節の行事、利用者様の誕生日会、ドライブ等、色々な行事で気分転換をして戴いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場の天気の良い日は、外へ散歩に出たり、近所のスーパー等に行き、地域の方々と交流が出来るよう支援したり、気分転換が図れるようにしている。	車椅子利用者を含め、ホーム周辺や河川敷内散策路の散歩、近くのホームガーデン見学や買い物に出掛けています。また、町内会行事への参加、ホーム夏祭りや焼肉パーティ、花見やさくらんぼ狩りなどの外出行事によって戸外に出る機会を多く持ちながら身体機能を維持するよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により、ほとんどの利用者様が金銭管理が出来ないので、職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人への電話や手紙は本人の希望の都度、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共用の空間は、温度や湿度の調整を冷暖房や加湿器等で調整している。居間や玄関などの壁面に季節ごとの飾りつけや写真を貼っている。	床と壁面下部の木調の内装と暖色系の照明によりリビングは暖かみがあり、季節の飾りと手づくり作品や写真が親しみを感じさせ、ソファで寛げる共有空間になっています。温度調整も適性に行われ、浴室やトイレの清掃も行き届き、居心地良く過ごせる空間を実現しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の中心にソファとテレビが置いてあり、自由に好きな歌番組等を見て戴いている。畳イスも2箇所設置し、自由に過ごして戴いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの家具や飾り物、テレビ等を置き、本人が好きな時に居室で過ごせるようにしている。	居室には1間幅の押し入れがあるため室内の整理が容易です。利用者は馴染みの使い慣れた調度品類やテレビなどを自由に配置し、壁面には家族写真や手づくり作品を飾ってのんびりと暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、死角が無いよう、工夫した空間の中で、安全な生活が送れるよう、支援している。又、危険防止のため、設備等も常に話し合い、改善している。		